第 82 回日本循環器学会学術集会報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック　山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。昨年もご報告させて頂きましたが、今年も第 82 回日本循環器学会学術集会(JCS2018)に参加させて頂きましたのでレポート致します。

今年は、チーム医療セッションの教育講演 1「ICRP Publication 120：心臓病学における放射線防護」での講演でした。何で放射線防護？と思われる方もいらっしゃるかもしれません。実はこの publication では、心臓インターベンションだけではなく、心臓核医学に加えて心臓 CT も取り上げられています。そして、心電図同期 CT の特徴や被曝を低減するためのテクニックなどの詳細が解説されています。これを紹介するのが私の役目でした。プレゼンを作成するに当たり、発表の場が JCS という事で、CT に携わっていない方達は、なぜ心電図同期 CT で被曝が問題になってしまうのかは良くわからないと思いましたので、小さなピッチの必要性や様々なスキャンプロトコルなどを図解でわかり易く説明して参りました。初日の朝一番のセッションだったので、集客は今ひとつでしたが、循環器医療の中での診療放射線技師の役割を示すための良い機会であったと思います。

もう一つの役割は、同じくチーム医療セッションのポスターによる一般演題の座長でした。印象的だったのは、アンモニア PET と iFR とを比較し、iFR は心筋の微小循環障害を反映するとの事で、糖尿病などを有する場合には注意が必要とのご発表でした。勉強になります。

今回は、メインホールで行われた講演を中心に聴講しました。大会長講演 1 の演者は、なんと”桂 文枝師匠“で、大阪ならではの企画でした。また、今回の大会長が大阪医大の澤教授で、iPS 細胞による心筋シート移植が始まったこともあり、山中伸弥先生のお話も聞くことが出来ました。モチベーションの上がるご講演でした。さらに welcome ceremony として、世界的指揮者の佐渡裕さんが監督する

スーパーキッズ・オーケストラの演奏を聴くことが出来ました。1曲目に演奏されたバッハの”シャコンヌ“はすばらしく、泣きながら聞き入っていました。久しぶりに心動かされました。そして、その夜には、会員懇親会が行われ、なんと！「よしもと新喜劇」が会場まで出張してきていました。さすが日循！会員を惹きつけます。

　このように、毎年楽しいJCSには、心血管インターベンションに携わるアンギオ好きな診療放射線技師の皆様が多く参加されており、交流を深める良い機会でもあります。来年はパシフィコ横浜での開催です。一緒に参加しませんか？